

対象年度		平成31年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート									
事務事業名		伝統的建造物群保存対策事業						予算事業名		伝統的建造物群保存対策事業費			
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	文化財保護法，都市計画法			
				10	05	06	2007	政策経費					
総合計画体系		2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)						事業の区分		主要事業			
		2-1計画的で魅力あるまちづくり(都市計画)								重点事業			
		③良好な景観形成						担当課係等		生涯学習課			
		1地域特性に合わせた景観の形成								文化係			
事業期間		継続(平成30年度～平成31年度)											
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】						
伝統的建造物群保存対策調査を実施し基礎資料を作成することで、伝統的建造物群保存地区の指定及び重要伝統的建造物群保存地区の選定に向けて保存対策事業が推進される。							平成26年度から平成29年度にかけ、市民、まちづくり団体、自治会長等で構成する都市整備検討のためのワークショップを実施し、歴史的な町並みの保存活用について伝統的建造物群保存地区に指定し保存活用していくという案で一定の結論があった。						
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】							【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】						
○伝統的建造物群保存対策調査 北部市街地の約30ヘクタールの調査対象地区の歴史的背景から町並みや景観の形成、歴史的建造物、文化や社会の学術的価値を明らかにするため、調査を実施する。 ○伝統的建造物群保存対策調査委員会 調査の重要事項や方向性を決定し、保存対策案及び保存計画案を策定するため、学識経験者、地元住民、行政で構成する調査委員会を運営する。							・北部市街地約30ヘクタールにある約400世帯 ・学識経験者等						
【事業をとりまく環境の変化】							国登録有形文化財を含めた歴史的建造物は、江戸から昭和期の建物であり、修復費用が問題となっている。 重要伝統的建造物群保存地区は全国に約120箇所あり、年々増加している。						
【平成31年度 事業内容】				【平成32年度 事業内容】				【平成33年度 事業内容】					
・報償費(調査委員会) ・旅費 ・委託料(調査、報告書作成)													
■事業費													
				H29年度		H30年度							
財源内訳	国庫支出金	0		1,342									
	県支出金	0		0									
	地方債	0		0									
	その他	0		0									
	一般財源	0		1,343									
歳入計(千円)				0		2,685							
歳出内訳	節(番号+名称)			金額(千円)		金額(千円)							
	09 旅費			0		7							
	13 委託料			0		2,678							
歳出計(千円)(A)				0		2,685							
伸び率(%)						皆増							
備考	総合計画72ページ 予算書175ページ												

平成29年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H29年度	H30年度	H31年度
活動 指標	調査委員会の開催	回	目標	0.00	3.00	3.00
	調査委員会を開催し、調査の重要事項や方向性の決定、調査の中間報告を行う。		実績	0.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	調査の進捗率	%	目標	0.00	50.00	50.00
	北部市街地約30ヘクタールの調査を実施する。		実績	0.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	重要伝統的建造物群保存地区選定のためには、調査が必須となっており、結城の町並み発展を明確にする絶好の機会である。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	行政が主体となる以外に方法はない。
	手段の妥当性	B どちらとも言えない	調査自体は大学への委託事業であるが、調査委員会の構成メンバーは、追加等、変更の可能性がある。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	国の補助金を活用した事業であるが、多くの個人情報絡む調査等のため、行政の介入が必要である。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	対象は、北部市街地の一部住民だが、歴史的背景を明らかにすることは、結城市にとって貴重な財産といえる。
有効性	成果向上の余地		
進捗度	事業の進捗		
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 北部市街地にのこる、歴史的背景からの街並み・景観の形成・歴史的建造物文化や社会の学術的価値等の調査をして、伝統的建造物群保存地区および重要伝統的建造物群保存地区の選定に向け調査をしていく。	
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。	